

“姑娘”の語義及び使用の歴史的変遷について —明清時代の白話小説を中心として

王 姝茵

1. 問題の提出

“姑娘”が近世漢語でよく使われる呼称語として、方言、社会の発展などの影響を受け、語義の変化が簡単に減少するという事ではない。《辞源》によれば、“姑娘”は一番早い時（宋元）の意味が「父の姉妹」への呼称語である。ところが、表3に示したように、明清時代では、“姑娘”は「父の姉妹」の以外、いくつかの意味を持つ。この変化の方向は筆者が考察した明清時代の多くの親族呼称語の変化と異なる（王（2018）の博士論文をご参照）。更に、この言葉の使い方の歴史的な変化も目立っている。よって、本稿は“姑娘”という明清時代にわたって、豊富な意味を持つ言葉の生まれと発展の流れを探求するつもりである。

2. “姑娘”の語義の歴史の変化

“姑娘”の発生について、今まで二つの解釈がある。一つ目の解釈として、畢小紅（2007, 108頁）と徐艳磊（2013, 136頁）は“姑娘”が「若い女性」を呼称する“姑”と“娘”という二つの同義語の合わせであると主張する¹⁾。もう一つの解釈として、蔣倩（2017, 123頁）は「父の姉妹」を呼称する“姑”と「母」を呼称する“娘”という語の合わせであると主張する²⁾。どちらの考え方が合理的であるか？徐艳磊（2013, 136頁）は自分の主張を証明するために、“姑”と“娘”及び“姑娘”の語義を下の表1のように比較をした。

表1 “姑”と“娘”及び“姑娘”の語義の比較³⁾

姑	娘	姑娘
婆婆 姑母 丈夫的姊妹 妇女 出家的女子	年轻女子（少女） 母亲 长一辈的已婚妇女 妇女	年轻的女子（少女） 姑母 女儿 小妻 妓女

この比較から、“姑”と“娘”及び“姑娘”の語義が確かに相関することは分かるが、時間の軸がないため、“姑娘”がどう発生するかは分からない。そのため、筆者は上古から明清までの“姑”と“娘”及び“姑娘”の語義の変化を表2の示したように簡単に整理した。表2から、以下のことは分かる。

まず、“姑”と“娘”が六朝と唐で既に「若い女性」と言う意味を持った。“姑娘”はもしこの意味の二つの言葉が合わさることによって生まれるなら、六朝と唐以降から、出現するはずであるが、実際は、“姑娘”は「若い女性」という意味の用例の出現が宋元時代の資料ではなく、明清時代である。次は、畢小紅（2007）自身が考察したように、“姑娘”は最初「父の姉妹」を呼称する呼称語で、南宋ぐらいで出現した。「母」の意味を持つ“娘”が丁度に北宋で出現した。この二つの言葉の意味は明らかに語義の発展の継承性が見える。第三、意味から見れば、明らかに「父の姉妹」を呼称する

“姑”は「母」を呼称する“娘”と同じで、親世代の呼称語である。そのため、時間の継承性と意味の合理性から見れば、「父の姉妹」を呼称する“姑”と「母」を呼称する“娘”という二つの言葉が合わさり、親世代の親族呼称語の“姑娘”となるのは自然だと考える。従って、筆者は畢小紅（2007）と徐艳磊（2013）の「若い女性」を呼称する“姑”と“娘”が“姑娘”となる主張は正しくないと考え、蔣倩（2017）の主張と同じで、「父の姉妹」を呼称する“姑”と「母」を呼称する“娘”から、“姑娘”という言葉は生まれたと考える。

表2 時期により“姑”と“娘”及び“姑娘”の語義の変化⁴⁾

	上古	六朝 唐	宋元	明清
姑	姑 父の姉妹 夫の姉妹	姑 父の姉妹 夫の姉妹 若い女性	姑 父の姉妹 夫の姉妹 若い女性	姑 父の姉妹 夫の姉妹 (=叔母)
娘	×	若い女性	若い女性 母(北宋)	若い女性 母
姑娘	×	×	父の姉妹 (南宋～元 ⁴⁾)	お嬢様 地位が高い女中 若い女性 女儿 父の姉妹 妾 妓女 夫の姉妹

一方で、「父の姉妹」を呼称する“姑娘”は宋元の時代で、広く使用される言葉で、南方方言の資料でも北方方言の資料でも用例が見られる。

- (1) 嬢娘不來不打緊，舅母不來不打緊，可耐姑娘沒道理，說的話兒全不准。《清平山・快嘴》47b.4)⁵⁾
- (2) 日公衙事冗不曾拜候今日稍閑姑娘是尊行須索拜候一遭。《溫太真玉鏡臺・第一折》1b.2)⁶⁾

例(1)と(2)のように、宋と元の口語資料で“姑娘”の用例が見える。例(1)は南方の話本で、例(2)は北方の曲劇である。二つの例は“姑娘”で「父の姉妹」を呼称することである。当時の「父の姉妹」と言う意味の“姑娘”の使用範囲の広さを証明した。現代では、胡士云（2007、17～20頁）と李大川（1989、76頁）によると、現代の成都、南昌と山東の方言の中で、“姑娘”で「父の姉妹」呼称することがある⁷⁾。即ち、「父の姉妹」を呼称する“姑娘”は宋元時代（通語）から現代（方言）まで変化していた。

ここまでは、“姑娘”という言葉の発生を検討した。前に述べたように、“姑娘”は「父の姉妹」という意味以外、「若い女性」という意味も持っている。それでは、「父の姉妹」を呼称する“姑娘”は消失しないが、もう一つの「若い女性」を呼称する“姑娘”はどの時期から生まれたか？

表3に示したように、例(5)～(8)のように、《三言》、《二拍》などの明代の小説から、既に若い女性を呼称する“姑娘”という言葉が現れた。ところが、明の《三言》、《二拍》から、《金》と《型》まで、「若い女性」への呼称語として使用される“姑娘”の用例は多くない。当時の使用は普通な「若い女性」或いは「若い女性の親族」を呼称する言葉で、明らかな尊敬という機能が見えない。同時に、例(3)と(4)のように、「父の姉妹」を呼称する“姑娘”は依然として使用される。

- (3) 老鴛忙陪笑道：三姐，明日是你姑娘生日。你可稟王姐夫，封上人情，送去與他。（《警》24.11a.5）
- (4) 却說魯學曾有個姑娘，嫁在梁家，離城將有十里之地。姐夫已死，止存一子梁尚賓，…。（《喻》2.6b.4）
- (5) 玉郎鑽下被裡，卸了上身衣服，下體小衣却穿着，問道：姑娘，今年青春了。慧娘道：…。（《醒恒》8.14b.10）
- (6) 員外又驚又喜道：…。小梅道：只問姑娘，便見明白。員外與媽媽道：姐姐，快說些個。引姐道：父親不知，聽女兒從頭細說一遍。（《初》38.18b.5）
- (7) 張篋娘道：可憐，可憐，如今這是那家，姑娘在這裏。鄭氏道：這家姓朱，他救我，眾人攬掇，叫我嫁他。（《型》25.10b.5）
- (8) 大妗子道：姑娘也罷，他三娘也說的是。不爭你兩個話差，只顧不見面，教他姐夫也難，兩下裡都不好行走的。（《金》76.3b.2）

表3 明清時代の“姑娘”の語義の用例の統計

	姑娘 [gūniáng]		姑娘 [gūniang]				
	父の姉妹	若い奥様	夫の姉妹	地位が高い女中 (妾)	妓女	お嬢様	娘、姉妹、若い女性
三言	x8+b6	0	m1+x2	0	0	0	x5+b1+m12
二拍	x26+b7+m13	0	0	0	0	0	m20+b1
金瓶	x79+b18+m6	b9+m3+x5	b2+m16	b14+m6+x2	x1	0	0
型世	b7+x6	0	0	0	0	0	m1+x2+b1
醒世	x15+b8+m5	m20+b13+x1	x1	0	0	b4+x1+m1	x5+m15+b14
紅樓	b2	0	m9+b2	X8+b41+m120	0	m322+b439+x53	x9+b2+m2

その二つ意味の“姑娘”に対して、白維国（2011，437頁）の《白話小説語言詞典》で、「父の姉妹」を呼称するの“姑娘”を [gūniáng] と書いて、若い女性を呼称する“姑娘”を [gūniang] と書く⁸⁾。韓省之（1991，294頁）《称谓大辞典》には、同じ発音の区別が載っている⁹⁾。李荣（1987，415-418頁）は論文で、《金》の「詞話本」と「竹坡本」の原文を比較して、二つの版の同じ意味の言葉であるが、異なる文字で書かれるという現象を比較し、こういう言葉の発音が軽声であるという結論を得た¹⁰⁾。そこで、筆者は「詞話本」と「崇禎本」比較し、“姑娘”という言葉はこういう現象が見られない。よって、《金》で軽声という発音の現象は存在するが、“姑娘 [gūniang]”という軽声の存在かは判明できない。以下の《金》の用例を通して、当時のこの二つの意味の“姑娘”が用いられる時に、同じではないことは分かれる。

《金》で、“姑娘 [gūniáng]”という「父の姉妹」という親族呼称語は意味拡張の方式を通して（親族呼称語の意味拡張の方式について王（2018）の博士論文をご参照）、「お嬢様」への呼称語の用例となる。この二つの言葉の指示対象は同じで若い女性であるが、尊敬の機能から見れば、大変異なる。用例を見てみよう。

- (9) 忽見春鴻掀簾子進來叫道：申二姐你來，俺大姑娘前邊叫你唱個兒與他聽去哩。這申二姐道：你大姑在這裡，…。（《金》75.10a.10）
- (10) 他意思不動，說道：大姑娘在這裡，那裡又鑽出個大姑娘來了。（《金》75.11b.6）
- (11) 西門慶道：你要不打緊，少不的也與你大姐裁一件。春梅道：大姑娘有一件罷了，我却沒有，

他也說不的。(《金》41.2a.5)

(12) 媒婆說道：秦老爺合秦奶奶分付我，既差你題親，諒你晁爺斷沒得推。故晁大舍就是你的姑爺了。待姑娘今日過了門，我明日就與你姑爺納一個中書。(《醒》18.3a.5)

(13) 小玉蘭往厨屋裏舀洗面水，狄周媳婦問說：你姑娘合姑夫一處睡來。(《醒》45.11a.10)

(14) 周嫂兒道：狄大爺說的，情管就是寄姑娘。俺見童奶奶說的話撇撇的，揀人家，挑女婿的，俺倒沒理論到這上頭哩。(《醒》75.10b.7)

《金》の例(9)と(10)は、指示相手は若い女性であるが、一つは「西門のお嬢さま」を呼び、例(10)の“大姑娘”と例(9)の二番目の“大姑”である。この“大姑娘”は「父の姉妹」という意味からの拡張である。即ち、「西門のお嬢様」への尊敬語である。もう一つは例(9)の女中への呼称語で、例(9)の一番目の“大姑娘”である。これは「若い女性(女中)」への丁寧語であるにすぎない。この点は例(9)の「申二姐」という話し手が意識的に同例の“大姑娘”と区別するため、“大姑”という言葉を使うことから分かれる。例(11)で、話し手は正に例(9)で呼ばれる女中であるが、用例で、お嬢様の「西門大姐」を“大姑娘”でを呼称する。主人と使用人へは決して同じ呼称語を使う可能性がないから、例(11)の“大姑娘”は必ず例(9)の“大姑娘”と同じではないと考える。

即ち、例(10)の“大姑娘 [gūniáng]”は例(9)二番目の“大姑”と同じで、お嬢様への尊敬語である。例(9)の一番目の“大姑娘 [gūniáng]”は「若い女性(女中)」への丁寧語である。即ち、《金》で“姑娘 [gūniáng]”と“姑娘 [gūniáng]”は「若い女性」への呼称語であるが、使用対象は異なって、尊敬の程度も違っている。

つまり、明代の《金》で、確かに「父の姉妹」を呼称すると「若い女性」を呼称するという二つの意味を持っている“姑娘”が存在する。今は二つの言葉は発音の区別があるかは不明である。ここで、二つ意味の“姑娘”を区別するため、辞典の通りにそれぞれに異なる発音を付ける。

清初の《醒》で、こういう区別は依然として存在するが(例(13)(14))、《醒》から、“姑娘 [gūniáng]”で「官僚のお嬢様」を呼称する用例は出現した(例(12))。

即ち、明代から、既に「若い女性」を呼称する“姑娘 [gūniáng]”は出現していたが、後の《紅》のような、「地位がある若い女性」への呼称語とはならない。主に「若い女性或いは若い女性の親族」などへの呼称語として使用される。

清代から、“姑娘 [gūniáng]”も“姑娘 [gūniáng]”も尊敬語として「お嬢様」を呼称できるようになった。清初の《醒》で、両方使われるが、使用の区別がはっきりした。例(15)と(17)のように、“姑娘 [gūniáng]”で「未婚のお嬢様」を呼び、“姑娘 [gūniáng]”で「既婚の若い奥様」を呼称する。

尚、北京の地域で、例(16)のように、尊敬機能を持っていない“姑娘 [gūniáng]”で「妹、娘」と「若い女性」等を呼称する用法もある。

(15) 小玉蘭道：姑娘要緊開那衣厨，尋不見了鑰匙，特差我來要哩。狄希陳道：…。(《醒》66.4a.3)

(16) 他爹說：灶上的那利 <= 裏 > 去了。叫姑娘端菜哩。(《醒》55.2b.10)

(17) 三個媽媽子商量說：唐家的姑娘人材不大出衆，這還不如原舊姓計的嬌子哩，這是不消提的了。(《醒》18.7a.9)

“姑娘”の用法は、《紅》まで、激しく変わった。“姑娘 [gūniáng]”は完全に親族呼称語となって、尊敬語として使われない。同時に使用頻度も激しく減少した。一方、“姑娘 [gūniáng]”は強い尊敬機能を持って、「お嬢様/地位がある女性」への呼称語となった。同時に普通の女性或いは女性の親族への用例はまだ見られるが、少なくなる。その用例が(18)～(22)である。例(18)は「父の姉

妹」を呼称する。“姑娘 [gūniáng]”の例であるが、他の例は「各階層の若い女性」を呼称する“姑娘 [gūniang]”である。“姑娘 [gūniang]”の例の中で、例(19)(20)(21)は全部が「お嬢様」を呼称しないが、ある程度の尊敬の機能を持つ。

- (18) 茗煙在窗外道：他是東胡同子裏璜大奶奶的侄兒。…。璜大奶奶是他姑娘。你那姑媽只…。(《紅》9.8(211)a.8)
- (19) 宝釵才放下筆，轉過來，滿面堆着笑讓：周姐姐坐着。周瑞家的也忙陪笑問：姑娘好。一面炕沿上坐了，…。(《紅》7.1(152)b.2)
- (20) 宝釵…因嘆道：…襲姑娘從小兒只見宝兄弟這麼樣細心的人，你何嘗見過天不怕地不怕，心里有什麼口里就說的人。襲人…。(《紅》34.2(768)b.4)
- (21) 金桂道：好姑娘，好姑娘，你是個大賢大德的。你日後必定有個好人家，好女婿，…。(《紅》83.13b.9)
- (22) 灯姑娘便一手拉了宝玉進里面來，笑道：你不叫嚷也容易，只是依我一件事。(《紅》77.13b.6)

これまで、“姑娘 [gūniang]”と“姑娘 [gūniáng]”は徹底的に分化された。(地位がある)「若い女性」を呼称する“姑娘 [gūniang]”と「父の姉妹」を呼称する“姑娘 [gūniáng]”という二つの言葉である。現代漢語の共通語で、“姑娘 [gūniang]”は若い女性(地位が無論)を呼称する言葉として残される。“姑娘 [gūniáng]”は「父の姉妹」を呼称する方言となった。清代中期以降の《兒女英雄傳》で、「若い女性」を呼称する“姑娘 [gūniang]”だけが見られる。

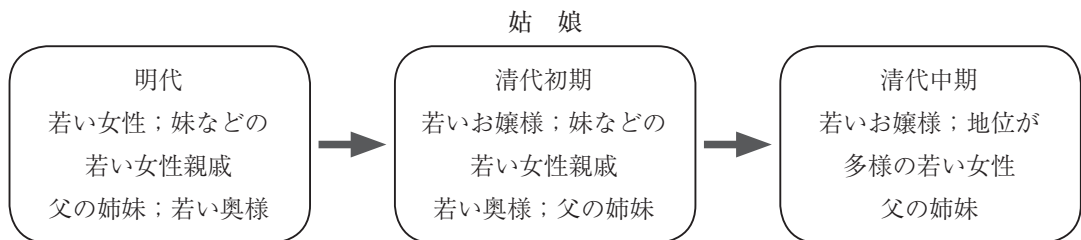


図1

3. 二つの“姑娘”の使用方式の変化

これまで分析したように、“姑娘”の語義は明清時代で複雑な変化が起こった。それでは、このような語義の変化は言葉の使用にどのような影響を与えるか？この問題を明らかにするために、同時代の類義語の“姐姐”、“大姐”、“小姐”と一緒に検討する。これらの言葉の使用の変化をよりよく考察するために、筆者は言葉が使用される時の尊敬程度を考察標準とする¹¹⁾。

まず、用例を見てみよう。例(23)～(26)は“姐姐”の用例で、呼称する相手の身分や地位が様々で、呼称語の使用効果も多様である。即ち、この時の“姐姐”は「若い女性」への呼称語として広く使用される。例(27)の“小姐”は官僚階層に対する用いられる呼称語で、尊敬の使用効果が強い。例(28)～(30)の“大姐”は《金》で、明らかに呼称する相手へ尊敬或いは丁寧を表す効果が見える。最後例(31)(32)の“姑娘”は前で言ったように、二つの異なる意味と使用を持つ。

- (23) 月娘問：你每笑甚麼。玉樓道：六姐今日和他爹下棋，輸了一兩銀子，到明日整治東道，請姐姐耍子。(《金》11.3a.6)

- (24) 走到亭子上，只見孟玉樓搖^颯的走來，笑嘻嘻道：姐姐如何悶悶的不言語。金蓮道：…。(《金》11.1b.8)
- (25) 婦人便哭道：…。因叫春梅來：姐姐你過來，親對你爹說。(《金》12.9a.3)
- (26) 那小廝慌慌張張走到房門首，西門慶與婦人睡着，又不敢進來，只在簾外說話，說道：姐姐、姐夫都搬來了。…。(《金》17.3a.3)
- (27) 伯才道：不瞞你老人家說，此是青州徐知府老爹，送與小道的酒。他老夫人、小姐、公子，…。(《金》84.5b.2)
- (28) 玉樓問：大姐，你女婿在屋裡不在。大姐道：他不知那裡吃了兩鍾酒，在屋裡睡哩。(《金》58.16b.2)
- (29) 正說着，只見丫頭過來遞茶。韓道國道：這個是那裏大姐。婦人道：…。(《金》38.6b.4)
- (30) 潘金蓮嘴快，便叫道：李大姐，你過來，與大姐下個禮兒。…于是向月娘面前，…。(《金》20.7a.9)
- (31) 經濟傍邊坐下。…。月娘陪着他吃了一回酒。月娘使小玉：請大姑娘來這裡坐。小玉道：大姑娘使着手，便來。(《金》18.8a.1)
- (32) 玉簪恐怕他進屋裡去，便一徑支他說：前邊六娘請姑娘，怎的不往那裡吃酒。那雪娥…。(《金》23.5a.8)

《金》での“姑娘”、“姐姐”、“大姐”、“小姐”の意味と尊敬を表す程度を比較する。表4に示したように、《金》で、“姐姐”などの言葉の尊敬機能は均一ではない。“姐姐”はあまり強くない。“大姐”はお嬢さまへの呼称語として尊敬機能が強い。地位が低い女性を呼称する用例もあるが、数量が少ない。そのため、全体から見ると、“大姐”の尊敬機能が強い。“姑娘 [gūniáng]”は尊敬の意味は強いが、“姑娘 [gūniang]”はそれ程強くない、妾や妓女などを呼称する“姑娘 [gūniang]”の用例も見られる。“小姐”は官吏のお嬢さんへの呼称語で、身分を指示する意味として地の分がよく使われるが、強い尊敬機能を持っている。即ち、もし《金》での“姑娘”“姐姐”、“大姐”、“小姐”の尊敬を和表す程度を図で表すと、図2のようになる。

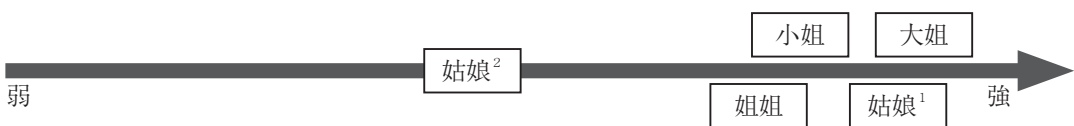


図2

表4

呼称語	意味	尊敬程度
姐姐	妾と正妻の間の呼称	ある 用例が一番多い
	恋人及び女性	ない
	若い使用人	ある、強くない
	若い女の主人	強い
	娘、妹	ない
小姐	官吏の娘	ある、強くない
	未婚の若い女の主人	ある、強い

大姐	若い女の使用人	有る、
	若い女の主人 / 娘	有る、強い 用例が一番多い
	若い女性 (地位が低い)	ない
	正妻	ある
	地位が高い妾	ある、強い
姑娘 [gūniáng] ¹	若い奥さま	ある、強い
姑娘 [gūniang] ²	夫の姉妹	ない
	地位が高い女中 (妾)	ある、強くない
	妓女	ない

次は《醒》での“姑娘”、“姐姐”、“大姐”、“小姐”の意味と尊敬程度の比較。用例を見てみよう。例 (33) (34) は“姐姐”の用例で、《金》より、呼称する相手の範囲が縮小した。使用効果からみれば、「お嬢様」を呼称する時に、尊敬の効果があり、または妻と妾の間の丁寧語である。この二つは尊敬の効果が見える使用方法である。即ち、この時の“姐姐”の語義と使用は徐々に減少した。例 (35) (36) の“大姐”は《金》と異なり、地位が高い階層の若い女性に用いられない。例 (37) の“小姐”は依然として官僚階層に対する用いられる呼称語で、尊敬の使用効果が強い。最後例 (38) (39) の“姑娘”は前と同じ、二つの異なる意味と使用を持つ。

- (33) 薛夫人問說：狄周媳婦怎麼對着你說姐姐攆出姐夫去。薛三槐娘子道：他說姐姐…。(《醒》45.4a.2)
- (34) 寄姐道：老吳看見的一定是我。若是薛家素姐姐，先是沒鼻少眼，怎麼誇得這等齊整。(《醒》97.5b.8)
- (35) 狄周說道：…。你這位大姐可也不是，這是甚麼事情，你却留住他在這裏混。(《醒》38.11b.6)
- (36) 走到橋中，這圍住看的光棍雖與素姐面生，却盡與程大姐相熟，都說：程大姐，你來燒香哩。(《醒》73.8a.9)
- (37) 龍氏送的候張兩個出門，揚聲說道：…。您大嫂罷麼，是舉人家的小姐。小巧姐，你也是小姐麼。(《醒》74.4b.3)
- (38) 狄周媳婦問說：你姑娘合姐夫一處睡來。玉蘭說：俺姐夫在卓子上睡，沒在床上去。(《醒》45.11a.10)
- (39) 且是往人家去，進得中門，任你甚麼王妃侍長，奶奶姑娘，狠的…。(《醒》8.10a.2)

表5に示したように、《醒》で、“姐姐”は尊敬機能を持ち、《金》での“大姐”と似る。それに対する、“大姐”という言葉の機能は著しく弱くなった。《金》での主人様への尊敬語から庶民階層の女性への呼称語となって、尊敬機能がなくなった。“小姐”はそのままである。“姑娘 [gūniáng]”も《金》と同じで、若い奥様への尊敬語として、尊敬の意味が強い。同時に、“姑娘 [gūniang]”は官僚階層のお嬢さまへの呼称語となって、尊敬機能が強くなる。《醒》での“姑娘”、“姐姐”、“大姐”、“小姐”の機能は図3のようになる。



図3

表5

呼称語	意味	尊敬程度
姐姐	妾から正妻へ	ある
	恋人及び女性	ない
	若い女の主人	ある、強い 用例が ¹ 一番多い
小姐	未婚の若い女の主人	ある、強い
大姐	若い女の使用人	有る、
	若い女性（官僚ではない）	ない 用例が ¹ 一番多い
姑娘 [gūniáng] ¹	若い奥さま	ある、強い
姑娘 [gūniang] ²	夫の姉妹	ない
	お嬢様	ある
	娘、妹、若い女性	ない

最後は《紅》での“姑娘”、“姐姐”、“大姐”、“小姐”の意味と尊敬程度の比較。まず、用例を見てみよう。例(40)(41)は“姐姐”の用例で、《紅》で、“姐姐”は「お嬢様」を呼称することに用いられなく、使用効果が丁寧を主とする。例(42)は“大姐”と“小姐”の比較で、この時期の“大姐”は尊敬意味が失ったことを証明した。例(43)の人の苗字とする“大姐”は例外である。最後例(44)(45)の“姑娘”は前で言ったように、二つの異なる意味と使用を持つ。ただ、《紅》での「父の姉妹」を呼称する“姑娘”の用例が少なく、当時の「若い女性」を呼称する“姑娘”は優位を占める言葉である。

- (40) 寶玉…咲道：好姐姐，你瞧瞧，我穿着這個好不好。鴛鴦一擰手，便進賈母房中來了。（《紅》52.8a.8）
- (41) 尤二姐陪笑忙迎上來萬福，張口便叫：姐姐下降，不會遠接，望恕僉促之罪。說着便福了下來。鳳姐忙陪笑還禮不迭。（《紅》68.1b.5）
- (42) 那屋子是我們小哥兒的，那人是他屋裡的丫頭，到是個大姐，那里的小姐。若是小姐的綉房，小姐病了，你那麼容易就進去了。（《紅》51.9a.10）
- (43) 誰知鳳姐之女大姐病了，正亂着請大夫來診脈。（《紅》21.7a.7）
- (44) 只見一個穿紅綾襖青緞招牙背心的一个丫鬢走來笑說道：太太說，請林姑娘到那邊坐罷。（《紅》3.7b.3）
- (45) 春燕咲道：…。你這會子又跑來弄這個。這一帶地上的東西都是我姑娘管着，…老姑嫂兩個照看得謹謹慎慎，…。（《紅》59.4a.8）

表6に示したように、《紅》で、“小姐”の意味と機能は前の時代と同じであるが、“姐姐”と“大姐”という二つの言葉の尊敬機能は基本的になくなった。“姐姐”は若い女中への呼称語として、尊敬機能を少し持っている。“大姐”は《金》で尊敬語として用いられるが、清の初期の《醒》で、些かの軽視の機能を持ち、《紅》まで、人の名前とする用いられる用例以外に、完全に軽視の言葉となった。それに対する、“姑娘 [gūniáng]”は若いお嬢様への呼称語として、たくさん使われて、強い尊敬効果を持っている。“姑娘 [gūniáng]”は親族意味だけを持って、尊敬機能も弱くなった。即ち、もし《紅》での“姑娘”“姐姐”、“大姐”、“小姐”の尊敬機能の程度を図で表すと、図4のようになる。

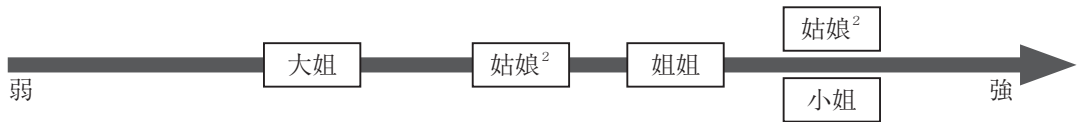


図 4

表 6

呼称語	意味	尊敬程度
姐姐	妾から正妻へ	ある
	恋人及び女性	ない
	若い女中（女性）	ある、強くない 用例が一番多い
小姐	未婚の若い女の主人	ある、強い
大姐	若い女の主人／娘	名前 ない
	若い女性（地位が低い）	ない
姑娘 [gūniáng] ¹	父の姉妹	ない
姑娘 [gūniang] ²	夫の姉妹	ない
	地位が高い女中（妾）	ある、強くない
	お嬢様	ある、強い

以上の《金》、《醒》、《紅》の用例を比較すると、“姑娘”、“姐姐”、“大姐”、“小姐”という四つの言葉の使用方式には明らかな変化が起こった。“大姐”の尊敬を表す機能は、清代から明らかに弱くなった。“姐姐”も段々弱くなった。それに対して、“姑娘 [gūniang]”の尊敬機能が強くなっている。そして、明代の“姐姐”、“大姐”の機能を代替するようになった。一方、“姑娘 [gūniáng]”の尊敬機能も清の中期で大変弱くなった。“小姐”の尊敬機能は安定している。

4. 結論

これまで、“姑娘”の語義と使用の歴史な変化を考察した。“姑娘”は宋元時代で、「父の姉妹」という単一の意味を持っている親族呼称語として生まれた。しかし、この言葉は明清時代で、身分が様々な「若い女性」を呼称することができる呼称語となった。語義は多く発展した。更に、清代の中期で、「父の姉妹」のという“姑娘 [gūniáng]”と「若い女性」を呼称する“姑娘 [gūniang]”意味の徹底的な分化は実現するが、“姑娘 [gūniang]”は「若い女性」を呼称する言葉として広く用いられ、前代の“姐姐”や“大姐”など部分の機能にも代替した。この発展の方向は明清時代の親族呼称語の「語義単純化」という発展方向と逆する。“姑娘 [gūniang]”の語義の発展方向は社会的な需要からである。当時の女性への専門な呼称語が乏しいから、こういう親族呼称語を社会化させ、固定な社会的な呼称語として用いる方式はまさに明清時代の親族呼称語の使用の特徴の一つと言える（詳細が王 (2018) の博士論文をご参照）

現代漢語で、「父の姉妹」のという“姑娘 [gūniáng]”は方言でしか用いられない。一方、清の中期で、尊敬の機能を持ち、「お嬢様」を呼称する“姑娘 [gūniang]”は、現代漢語で尊敬の機能がなくなり、明代の「若い女性」を呼称する語義と戻った。

注

- 1) 毕小紅 (2007) 「“姑娘” 称谓语的语义演变及对称谓缺环的弥补」『和田师范专科学校学报』2007年第三期. P108
徐艳磊 (2013) 「“姑娘” 词义源流考」『鸡西大学学报』2013年第4期. P136
- 2) 蒋倩 (2017) 「“娘” 与 “妈” 考释」『现代语文』2017年第1期. P123
- 3) 徐艳磊 (2013) 「“姑娘” 词义源流考」『鸡西大学学报』2013年第4期. P136
- 4) 表の語義の時代は《辞源》による。
- 5) 胡士雲 (2007) 《汉语亲属称谓研究》北京商務印書館 2007年9月. P17-20
李大川 (1989) 「山东方言区亲属称谓表」『中国語研究』1989年第31号. P76
- 6) 本例は《清平山堂話本》からの用例である。本例の《快嘴李翠蓮記》は太田辰夫 (2013) が並べた宋元時代の言語材料の中で見える。更に、毕小紅 (2007) はこの例を一番早い“姑娘” 用例として、南宋の時代の例と考える。
- 7) 《辞源》によれば、“姑娘” の「父の姉妹」という意味の用例は以下の通り、小官姓温名嶠，字太真，官拜翰林學士。小官別無親眷，止有一個姑娘，年老寡居，近日取來京師居住。（《元曲選・關漢卿・玉鏡臺一》）
ただ、筆者の手元の原文と対照すると、“姑娘” ではなく、“從姑” である。筆者の手元の原文によると、《温太真玉鏡臺》という元曲に『辞源』と異なる“姑娘” の用例が見られた。よって、筆者は自分の資料により、論文の例を出した。
- 8) 白维国 (2011) 《白话小说语言词典》商务印书馆 2011年3月. P437
- 9) 韩省之 (1991) 《称谓大辞典》新世界出版社 1991年10月. P294
- 10) 李荣は「詞話本」と「竹坡本」をもって、“曉得”、“家火”、“横豎”、“央告”、“鬧动” という五つの言葉は軽声の発音があると証明した。即ち、軽声の発音はその時期に既に存在した。本文で書いたように、「若い女性」を呼称する“姑娘” は軽声と読まれる時代を証明する証拠がない。筆者は本文で、只辞典により、意味の区別のため、「若い女性」を呼称する“姑娘” を軽声と設定する。
李荣 (1987) 《旧小说里的轻音字例释》《中国语文》1987年第6卷. P415-418
- 11) 表4～6の中の尊敬程度について、言葉の語義と使用される相手の地位から考察する。例えば、主人や官僚階層の女性に用いられる言葉は尊敬の程度が強いと考える。それに対して、使用される相手の地位が低いと、尊敬の程度も低い。また話し手と聞き手の関係も考慮する。この標準で、各表に尊敬の程度の強さを書き入れた。

参考文献

- 1 関漢卿 (元) 撰・嚴一萍 (1972) 選輯《原刻景印叢書集成三編・温太真玉鏡臺》藝文印書館 1972年6月
- 2 洪楸 (編) 《清平山堂話本廿七篇》(日本内閣及寧波天一閣藏明嘉靖間刊) 世界書局印行 1958年1月
- 3 蘭陵笑笑生 (明) 《金瓶梅詞話》(萬曆本) 香港: 太平書局 1981年9月
- 4 西周生 (清) 《醒世姻緣傳》(同德堂刊本) 上海: 上海古籍出版社 (古本小說集成) 1994年11月
- 5 曹雪芹 (清) 《脂硯齋重評石頭記》(庚辰) 北京: 人民文學出版社 2010年1月
- 6 曹雪芹・高鹗 (清) 《紅樓夢》(程甲) 瀋陽: 瀋陽出版社 2006年7月

- 7 馮夢龍（明）《古今小説40卷》（明天許齋刻本）（U盤版）
- 8 馮夢龍（明）《警世通言》（明天啓四年刻本）（U盤版）
- 9 馮夢龍（明）《醒世恆言》（明天啓葉敬池刻本）（U盤版）
- 10 凌濛初（明）《拍案驚奇》（明崇禎尚友堂刻本）（U盤版）
- 11 凌濛初（明）《二刻拍案驚奇》（明崇禎尚友堂刻本）（U盤版）
- 12 《辞源》商務印書館（第三版）（U盤版）
- 13 王姝茵（2018）『明清白話小説の親族呼称語の研究－〈醒世姻縁傳〉を中心として－』（博士学位請求論文（審査中））

The historical change of the meaning and use of "guniang"

Shuyin Wang

Abstract

"guniang" are commonly used words in Ming and Qing. The meaning of "guniang" is changing at that age. And this change is effected by dialect or social demand, etc. So the change of "guniang" is not the same as the other relative word, meaning decreasing. The meaning of "guniang" is increasing in Ming and Qing. Before this age, "guniang" mainly means "father's sister"; but in this age, "guniang" also means "young woman" and "young lady". So how did these changes happen and develop?

By looking the famous novel of Ming and Qing, we can find of "guniang" has not become a pure relative name. It still indicates several non-relationship in the middle of Qing. And "guniang", which is of respected function, has become the main use in that age.